

- 24) 唐土洋一(1980)三濃山ヘクロヒカゲモドキをたずねて、てんとうむし、(6):25.
- 25) 中口公一郎・吉阪道雄(1954)六甲山蝶類目録 MD KNEWS 別冊.
- 26) 辻 啓介・矢田 修・細見吉夫(1970)多紀郡蝶類目録(追報その2)、兵庫生物、6(2):158.
- 27) 田中 蕃(1966, a)兵庫県三田市のクロヒカゲモドキ MDKNEWS 18(3):41.
- 28) 田中 蕃(1966, b)兵庫県多紀郡のクロヒカゲモドキ MDKNEWS 18(3):41
- 29) 田中 蕃(1980)森の蝶ゼフィルス、築地書館東京.
- 30) 杜 隆史(1982)六甲山系の蝶、crude (23):72.
- 31) 仲田元亮(1982)能勢の昆虫(蝶の部) 大阪.
- 32) 広畑政己(1981, a)兵庫県産蝶類分布資料(1)てんとうむし、(7):30-34.
- 33) 広畑政己(1981, b)兵庫県に於けるウラナミジャノメの分布と生活史、てんとうむし、(7):1-5.
- 34) 広畑政己(1982, a)兵庫県産蝶類分布資料(2)、てんとうむし、(8):30-32.
- 35) 前川和昭(1983)洲本市にマウスイロコノマチョウ採集、parnassius (29):14.
- 36) 浜 祥明(1974)能勢のキマダラモドキについて、crude (11):2-4.
- 37) 川副昭人・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑保育社、大阪.
- 38) 藤岡知夫(1975)日本産蝶類大図鑑、講談社、東京.
- 39) 広畑政己(1982, b)兵庫県に於けるヒメキマダラヒカゲの分布と化性について、ひろおび、(6):31-34.

(S. 28:

Masami Hirohata 姫路市)

西宮のウスイロコノマチョウ

法 西 定 雄

1983年8月30日PM.9:00頃、西宮市甲東園在住の今稔先生が阪急西宮北口駅の便所の壁にウスイロコノマチョウがとまっているのを見つけ、採集しておられるので、先生に代って報告する。

他に、某氏が新神戸駅で本種をみつけたことを聞いている。

(西宮市)

ミスジチョウの遅い採集記録について

広畑 政 己

本種は普通は年1化で、県下に於ては6月上旬から7月上旬にかけて出現し、それ以降の採集記録は、これまでに小学生の夏休みの作品展に出品されたのが1例あるにすぎなかった。この記録も、採集年月日の記入間違いではないかとも考えていたが、この度、高嶋明氏より、8月と9月の本種の採集記録2例を御教示いただき、希に2化をするものがあるのではないかという疑問を持った次第である。なぜなら、1化目の母蝶から生れた次の世代の幼虫に、何かの成長を抑制する力が加わらなければ、どんどん成長し、8月までに全プロセスを完全に消化できるはずだし、その次の世代の幼虫も、越冬にふさわしい令数にまで育つことも充分考えられるからである。また、本種を飼育してもわかる通り、幼虫の成長にばらつきがなく、羽化期も安定していること。例えば1982年の姫路市での野外飼育の結果では、30数頭の幼虫が4月下旬から蛹化をし、5月10日ごろから末にかけてすべて羽化しており、幼虫の成長に差があつて、だらだらと8月や9月まで発生が続くとは考え難いからである。

このような理由で、2化も希にありうるといふ推測をしたわけであるが、2化するという例は非常に希で、年1化という生活環が本種にとっては一番適しているということは、採集記録から考えても当然である。もし、2化があるとすれば、これも推測の域を出ないが、5月のそれも早い時期に成虫が発生した場合が考えられる。そして、その個体からもたらされた次の世代の幼虫は、日長など外的要因に影響されることがないので、成長が促進され、8月や9月に2化目が発生するということである。

なにはともあれ、2化ということについては、確証を得たわけでもないので、本種の遅い記録についての問題提起としておきたい。採集記録を御提供いただいた高嶋明氏にお礼申し上げる。

遅い採集記録

朝来郡生野町新原	1♀	16-VII-1982	高嶋 明
宍粟郡波賀町音水	1♀	5-IX-1982	〃
飾磨郡安富町鹿ヶ壺	1♂1♀	8-VII-1981	森 康行 ¹⁾

参考文献

- 1) 広畑政己・佐々木薫(1982)兵庫県南西部におけるミスジチョウの分布、ひろおび、(6):35-37 (S. 28.

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市)